

[特別企画] Special Program

世界が湧いた 「羽仁進監督特集」

世界中のドキュメンタリー作家たちの神話となった短編記録映画の諸作、演技を超えてその人物の「かくれた、ほんとう」を浮かび上がらせる劇映画の数々。ジャンルを飛び越える実験と挑戦の大胆さと繊細さ。

今、改めて羽仁進を見る！ 上映後、対談やトークを予定しています。

『教室の子供たち』

▶9/21[日]12:00～



1954年/35mm/モノクロ/29分
監督・脚本:羽仁進／撮影:小村静夫

日本に於けるドキュメンタリーの概念を確立した、羽仁進の代表作。小学2年生の教室をみつめる監督の「眼」は、カメラなどまるで意識しない、活き活きとした子供たちの姿を捉える。その圧倒的なみすみすしさに驚嘆！

『絵を描く子どもたち』

『教室の子供たち』と併映



1956年/35mm/パートカラー/38分
監督・脚本:羽仁進／撮影:小村静夫

小学1年生の図画工作的授業の中で、表現する楽しさに目覚め、恐る恐る何かを語り始める子供たちを捉えた記録映画。人生に一度きりのその一瞬が鮮やかに焼き付けられている。1956年キネマ旬報短編映画ベストテン第1位。

『不良少年』

▶9/21[日]18:00～



1961年/35mm/モノクロ/89分
監督・脚本:羽仁進／撮影:金子満司／出演:山田幸男、吉武広和、山崎耕一郎
非行少年のシャバでの生活と少年院での姿を描いた初の長編劇映画。全く無名の不良少年達を起用し、ドキュメンタリーの手法を用いた新たな作風は、多くの映画人に衝撃を与えた伝説的。1961年キネマ旬報ベストテン第1位。

誠訪敦彦監督来場！

ゲストの詳細はHPにて。

ゲスト
来場予定

「映画監督への道～私を駆り立てるもの～」

山下敦弘監督に聞く

「リズムは獲得できるのか？」



独自のリズムとユーモア、そしてシニカルな現実認識で熱狂的なファンを持つ山下敦弘監督に、映画づくりにあったほうがいいあれこれ伺います。映画づくりはセンスや感覚で決まるのか、技術の取得でこそなのか。参考作品とトークで、映画の神髄に迫ります。

監督
来場予定



上映作品『BU・SU』

市川準監督作品/1987年



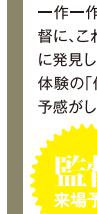
やました・のぶひろ／映画監督／大阪芸術大学の卒業制作『どんてん生活』で注目を浴びる。代表作に『リンダ リンダ リンダ』『天然コケッコー』『もたらりあむタマ子』など。

石井裕也監督に聞く

「不安は克服できるのか？」

一作一作、着実であり、そして急速な成長をみせる石井裕也監督に、これまでの体験を通して、自らのハードルを上げ続けるときに発見した、秘訣の数々を披露いただきます。それは、全ての未体験の「仕事」に向かう人々にとって、ヒント満載の話になる予感がします。

監督
来場予定



上映作品『ぼくたちの家族』

石井裕也監督作品/2013年



©2013『ぼくたちの家族』製作委員会

いしい・ゆうや／映画監督／1983年生まれ。『剥き出しにっぽん』でPFFアワード2007グランプリを受賞。代表作に『川の底からこんにちは』『舟を編む』『ぼくたちの家族』など。

[招待作品部門] Invited Works

本年の招待作品部門は、特撮、SF、ちょっと不思議、な映画に焦点を当てました。想像力、をかたちにする映画と、つくり手たちです。
映画は何でもできる！そんな原初的な喜びを浴びていただきたいプログラムです。

上映作品の詳細は決定次第、HPにて発表します。

第36回 PFF

検索

“見えない特撮”って何？ 「素晴らしい特撮の世界」

CG全盛の今敢て「ミニチュア撮影」や、自然現象を演出する「操演」など、観客からは“見えない”特撮の舞台裏と手仕事へのこだわりを、まさかの豪華ゲストが、特別に上映する2作品や自身の参加作品を題材に、縦横無尽に語る特別二部構成豪華プログラム再び登場！ これはやばい…

ナビゲーター: 大童一心 (いぬどう・いっしん／映画監督)

『ジョセと虎と魚たち』『メゾン・ド・ヒミコ』『ゼロの焦点』『のぼうの城』など。

ゲスト
来場予定

ハネラー: 尾上亮郎 (おのうえ・かつろう／特撮監督)

『日本沈没』『のぼうの城』『巨神兵東京に現わる』『進撃の巨人』など。

ゲスト
来場予定

佛田 洋 (ふつだ・ひろし／特撮監督)

『仮面ライダー』シリーズ、『スーパー戦隊』シリーズなど。

樋口真嗣 (ひぐち・しんじ／映画監督)

『ガメラ 大怪獣空中決戦』『ローライ』『のぼうの城』『進撃の巨人』など。

矢口史靖 (やぐち・しのぶ／映画監督)

『ウォーターポーラー』『スwingガールズ』『ロボジー』

『WOOD JOB!～神去なあなあ日常～』など。

こんな映画をつくった人たちが、2本の映画上映と、合計2時間を超えるトークで伝える、特撮の力！

©2006映画『日本沈没』製作委員会

第一部『WOOD JOB!』のひみつ大公開 ▶9/20[土]11:00～

まだ劇場公開が記憶に新しい本作の、あのシーンはどうやって完成したのか？ 命がけの撮影の秘密が今明かされる！ 全員一緒に『WOOD JOB!』を見て、一緒にその秘密をわけあう、スリリングなここだけの時間の到来！



『WOOD JOB!～神去なあなあ日常～』

2014年/DCP/カラー/116分

監督・脚本: 矢口史靖／原作:三浦しのぶ／撮影: 芦澤明子／出演: 梶谷将太、長澤まさみ、伊藤英明

三浦しのぶのベストセラー小説を映画化。都会を離れ、林業に従事することになった若者の成長を描く。監督の綿密な取材ネタが随所に散りばめられ、笑いと感動に溢れた本作のクライマックスシーン、その秘密が今明かされる！

第二部 上映作品 間もなく発表！

第一部の終了後、休憩のうちに第二部の開始です。観客も、ハネラーも、ナビゲーターも、みんな仰天、みんな盛り上がる、ある作品を上映し、その興奮のままに大トークを展開！

ワンピース20周年記念企画 「ようこそ ワンピース体験へ！」

『ワンピース』とは、矢口史靖監督＆鈴木卓爾監督の2人が、職業映画監督として歩き始めたばかりの「暇で金がない」1994年に、「とにかく映画を撮り続けたい！」と編み出した、ミニマル映画製作術。アニメーションではありません。

“予算と時間を割かずに撮る”ために制約を設けたことが工夫とアイディアを生み、その固定された画面からは、映画の純粋な楽しさがほとばしる！ みると簡単、やるるすごい技術に驚く、究極の、すぐに役立つ“映画脳の体操”。是非お試しあれ！

特報！
両監督とも、この企画のために只今新作を撮り下ろし中！

プログラムの詳細はHPにて発表します。

【ワンピースの制作ルール】

- ①固定カメラで撮る
- ②撮影中はカメラに一切触れない
- ③1話1シーン1カット完結
- ④アフレコや音楽ダビング、編集はしない

ベストセレクション +お蔵出し+新作発表！ ▶9/20[土]18:00～

10分前後のワンピースを10ピースほど上映
&両監督のトークを予定しています。



矢口史靖 (やぐち・しのぶ)
映画監督／1967年生まれ。『ウォーターポーラー』で注目されて以降、最新作『WOOD JOB!～神去なあなあ日常～』まで、第一線を走り続いている。



鈴木卓爾 (すずき・たくじ)
映画監督／1967年生まれ。『ゲゲゲの女房』『楽隊のうさぎ』などを監督する傍ら、『CUT』(アミール・ナディリ監督)などで、俳優としても活躍。